



メキシコ合衆国タパチュラ市 oooooooo どんなところ?!

平成25年7月9日(火)～7月10日(水)にタパチュラ市長と花巻市長との懇談をはじめ、市街地、企業、大学、港湾施設等の視察を行いました。また両市において、それぞれ姉妹都市提携に向けた手続きを進めるということで今後も協議をしていきます。

タパチュラ市は、農業と観光の盛んな都市であり、特に亜熱帯の豊かな自然を利用した観光振興に力を入れており、農業と観光が主要な産業である花巻市と共通点があります。それだけではなく、花巻市出身(東十二丁目)の照井亮次郎氏が大きな功績を残した地として、歴史的に花巻市とタパチュラは大変大きなつながりがあります。また、現在もタパチュラ市民の方々には、そうした歴史を引き継ぎ、日本を特別な存在として大事に思う親日の風土が息づいており、治安についても良好です。そのタパチュラ市についてご紹介いたします。

タパチュラ市の紹介

●市の概要

所在地：メキシコ合衆国チアパス州タパチュラ市
(西経92度16分、北緯14度54分)

市面積：303 km²

人口：233,185人 (2010年国勢調査)

日本との時差：夏-14時間、冬-15時間

公用語：スペイン語

【メキシコ合衆国】



タパチュラ市は、メキシコ合衆国南部に位置するチアパス州の中でも南端に位置する港湾都市で、グアテマラ共和国との国境に程近い自然豊かな地です。

●タパチュラ市との歴史

タパチュラ市は、最初の組織的な日本人の中南米移民団である「榎本殖民団」が到着した地です。殖民団は、1897年3月に横浜を出発、サンフランシスコ、アカプルコを経由し、同年5月19日にタパチュラ市にあるサン・ベニート港(別名マデロ港、現在のチアパス港)に到着しました(36名、内1名は船内で死亡)。殖民団は、愛知県、兵庫県、宮城県、岩手県の出身者により構成されていました。残念ながら、榎本殖民団は、資金不足や入植時期が不適當だったことが原因で、わずか3ヶ月で分解してしまいまし

だが、その後植民団の一部はチアパス州に残り、1905年に日墨協働会社を設立。同社は日系人学校建設や西和辞典編纂等に尽力しました。

現在メキシコには多くの日系人が居住していますが、その先駆けとなった地がタパチュラ市です。なお、現在も彼らの子孫が多く同市に居住しています。



↑ チアパス港

●タパチュラ市の産業

古くからメキシコと中米の交通の要衝として栄えたタパチュラ市の主要産業は畜産業（牛）、農業（コーヒー、バナナ、カカオ、マンゴー、さとうきび、大豆等）、観光産業です。また、太平洋岸には、メキシコ主要港の一つであるチアパス港を擁し、貿易港としてのみならず、観光クルーザー等も寄港しています。近年は、エコツーリズムにも力を入れ、コーヒー農園、マングローブ林散策等が行われています。



↑ 市のプラネタリウム



↑ タパチュラ市役所



↑ 200周年記念公園

<写真：ウィキペディアから引用>

かんれんとしよ

関連図書について

明治初期、遠い異国の地メキシコで、理想郷建設に命をかけた男たちがいた…

本書は、メキシコへ渡った明治の青年たちと、その後の植民地を舞台に、力強く生き抜いた日本人の軌跡をマンガで描いたものです。今から100年以上前の明治時代、南メキシコの地へ夢とロマンを求めて渡った日本人青年たちは、日本から遠く離れた異郷の空の下で、苦勞を重ねて農場を拓き、会社をおこし、水力発電機を架設、またある者は医師として現地の人々を救いました。さらに、現地住民への教育活動も熱心に行い、メキシコの地域社会に献身的に尽くし、住民から尊敬され、殖民思想を実現しようとした気概ある日本人青年たち…。

先人たちのこのような足跡が、メキシコの日本に対する親愛感情を生んだのです。（※Amazonから）

Tapachula上野久 原作

木ノ花さくや 作画



きょうかい

かしだし おこな

えつらん

協会にて貸出を行っておりますので、ぜひご閲覧ください。



韓国ソウルから「賢治」の地「はなまき」を訪れて。。。

「イーハトーブ館に着くや否や『賢治さん私来ましたよ〜!!』と思わず叫んでしまいました。」そう笑顔でお話してくださったのは、韓国ソウル出身の林 維喜さん。林さんはソウル中央大学日語日文学科の博士課程であり、宮澤賢治の詩に魅了された1人です。論文の研究テーマに賢治の詩を題材にするため、花巻に滞在し、毎日イーハトーブ館に通って資料を集めているそうです。今回は、その林維喜さんにインタビューにいったまいました。日本語を流暢に話す林さんでしたが、その背景には勉強熱心で努力家な林さんの姿をうかがうことができました。

Q. 日本語を勉強しようと思ったきっかけを教えてください。

→もともと外国語に興味があり、独学で英語や日本語を学んでいく中で、特に日本語により力をいれて勉強するようになりました。

Q. 日本のどんなところに興味を持ちましたか？

→中央大学日語日文学科の朴教授の日本文化交流への熱意に憧れ、国や文化、歌舞伎にも興味を持ちました。歌舞伎は大学でも公演されたことがあり、その迫力に圧倒されました。

Q. 賢治を知るきっかけを教えてください。

→日本語の聞き取りが苦手でしたが、後輩の勧めで日本のドラマや映画を1日に3~4時間聞き取りの練習をしていました。そのときに見た「愛し君へ」というドラマの中に「雨二モマケズ」の詩のが出てきました。東北のことも賢治のこともまったく知らなかったのですが、その詩が印象に残り、詩の意味、人物、背景についてもっと詳しく理解したいと思いました。

Q. 実際にこの「イーハトーブ」の地を訪れてどのようなことを感じましたか？

→よく作家の地を訪問しますが、ここのように資料が充実していて素晴らしく、勉強しやすい環境であることに驚きました。ここにいると、賢治さんが生きていたような気がしてきます。

Q. 今後の予定を教えてください。

→まずは論文を無事に書き終えることですね。秋田、青森など東北のあちこちも訪問したいです。せっかく東北に来たのでねぶた祭りやさんさ踊りもみたいです。実際に参加もしてみたいです。

Q. 他になにかありましたらお願いします。

→イーハトーブ館の方々の優しさに感謝しています。積極的に資料を提供してくださり、勉強しやすい環境を作ってくれます。またホームシックになった時も、ご飯に誘ってくださり一緒に食事してくださいました。滞在しているユースホテルのおばさんも本当に良くしてくださって、花巻の方々の優しさを身にしみて感じました。韓国の人たちにもこの素敵な地「花巻」を宣伝し、多くの人にこの多くの自然や人情の厚さを実感してもらいたいです。

最終笑顔で応えてくださった林さん、ご協力いただき本当にありがとうございました。



【写真】花巻市国際都市推進員の朴さん（右）

と林維喜さん（左）

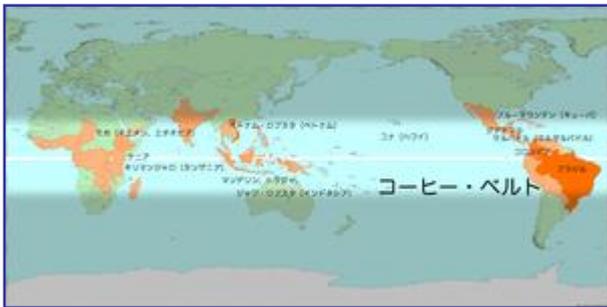
タパチュラでは、コーヒー農園での体験ツアーが観光客に人気だそうです。タパチュラ市のパンフレットには、「コーヒールート」という、チアパス州の南西にある美しいソコヌスコ地域のコーヒー農家を訪ねる新しいタイプのエコツーリズムが紹介されています。以下、和訳を載せてみます。

* * * * *

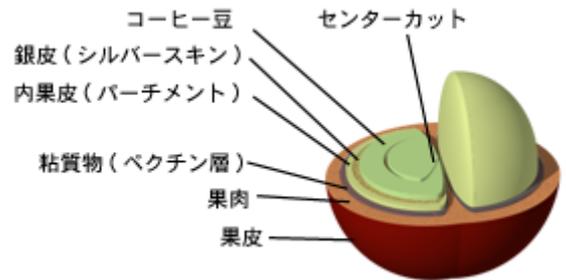
このツアーは、コーヒーの樹木の選び方、四季を通じての手入れから赤く熟したコーヒーの実の収穫まで、一杯のコーヒーに隠されたすべての秘密を学べるコーヒープランテーションにて開催されます。コーヒー農園の近くでは熱帯ならではの生態系も楽しむことができ、この地域に生息している150種を超える鳥類も見ることができます。

あとから訪問する施設では、コーヒーの実の発酵、水洗、豆の乾燥、保存、選別を見学できます。その後コーヒー豆を焙煎し、淹れます。ほとんどの農園は設備の整った簡易宿泊所とレストラン、浴場を備え、ハイキングやバードウォッチングのためのガイドスタッフなどたくさんのご提供をしてくれます。

* * * * *



世界でコーヒーの樹が栽培されているところは、左の地図にもあるように、赤道に近い、熱帯の地域です。



コーヒーがいつから飲まれていたのかは、よくわかっていないようですが、現在世界で最も飲まれている嗜好品であることにかわりありません。日本では、江戸時代に水腫に効く薬として飲まれていたようです。

まだまだ暑いこの季節、コーヒーゼリーを作ってみました。ドリップしたコーヒーを鍋に入れ、沸騰直前まで温めたらふやかしたゼラチンを入れてよく混ぜ、器にあげます。荒熱がとれたら冷蔵庫に入れ、2時間ほど冷やし固めます。お好みでミルクや練乳をかけてお召し上がり下さい。



少し固めのゼリーにして、チーズ風味のチョコスポンジケーキの間にはさみ、ティラミス風ケーキにするのもお勧めです。

Library Information



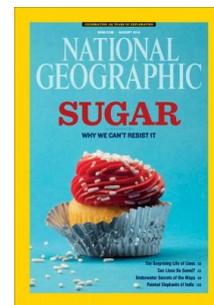
～図書のお知らせ～

新聞、雑誌、各種図書の閲覧と一部貸出しができますので、是非ご利用下さい！
 ※尚、雑誌はバックナンバーのみ貸出しいたします。

<定期購読雑誌 最新号※の内容>

・ Hir@gana Times - ひらがなタイムズ - ※

「Ibaraki Prefecture
 茨城県—最先端科学技術と自然と歴史の地」



・ NATIONAL GEOGRAPHIC ※

「SUGER
 WHY WE CAN'T RESIST IT」

・ News Week 日本語版 ※

「中国経済終末論」



・ ENGLISH JOURNAL (CD付き) ※

「スピーキング学習の王道」



今月のオススメ

英語を始めたい人も、伸ばしたい人も・・・

月刊誌『ENGLISH JOURNAL』(EJ)は、「生の英語のインタビューを通して異文化を学ぶ」ための、画期的な英語学習誌として1971年に誕生しました。ハリウッドスターやセレブのインタビュー、本場のニュースといった音声コンテンツや、バラエティーに富む特集・特別企画・連載など、楽しみながら英語の実力が付く記事が満載です。すべての音声に英文スクリプトと日本語訳が付きますので、ご自身の実力に合わせて、どなたにでもお役立ていただけます。

※8月末日時点

※「この本を入れて欲しい」「こんなテキストがあったらいい」という皆さんの声をお聞かせください!

協会からのお知らせ ~9月号~

INFORMATION -SEPTEMBER-

◆平成25年市民語学講座申込受付中

8月19日(月)から申込を開始している、平成25年度市民語学講座は9月6日(金)に締め切ります。英語は定員になってしまいましたが、韓国語・ドイツ語・中国語・スペイン語はまだ余裕がありますので、皆さんこの機会に語学に触れてみませんか。

お申込は・・・(公財)花巻国際交流協会(Tel. 26-5833)まで。

◆ホットスプリングス市民訪問団が来花します。

先月号でもお知らせしたとおり、9月10日(火)から15日(日)までの6日間、国際姉妹都市であるアメリカ合衆国アーカンソー州のホットスプリングス市から市民訪問団の方々が来花されます。

今年も、花巻祭りに合わせての来花で山車連合パレードにも参加されます。姉妹都市提携20周年をむかえるホットスプリングス市の皆様と友好を深めていただきたいと思います。

◆オーストリア共和国ベルンドルフ市から青少年が来花します。

9月25日から30日までの5日間、オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市から、青少年が花巻市を訪れます。一行は市内でホームステイをしながら友好を深める予定です。

◆国際フェアINはなまき2013

11月24日(日)に開催予定の「国際フェアINはなまき2013」にスタッフとしてご協力いただける方を引き続き募集しています。「食」「展示」「ステージ」「ディスカッション」「キッズ」「全体運営」の各部門でお手伝いいただく予定です。興味のある方はこの機会にぜひお問合せください。

これまでの協会事業(各種講座・イベント)の写真は、Facebookでもご覧いただけます。『花巻国際交流協会』と検索してください。

Facebookでは、花巻市国際都市推進員のジェシー・ガットマンさんとパク・ウンジョンさんも記事を投稿していますので、併せてご覧ください。

公益財団法人花巻国際交流協会のホームページもぜひご覧ください。